

令和 5 年度（2023 年度）

第 4 回熊本市生涯学習推進計画策定委員会

議事録

【開催日時】 令和 5 年（2023 年）9 月 28 日（木）10：00～12：00

【開催場所】 熊本市役所議会棟 2 階 議運・理事会室

【出席者】

■ 委員

八幡 彩子 委員長
加藤 貴司 副委員長
田川 智恵子 委員
中川 保敬 委員
原 幸代子 委員
林田 真 委員
萱野 晃 委員
松永 裕子 委員
貴田 雄介 委員

《欠席者》

勝谷 知美 委員

■ 事務局

石坂市民生活部長
《生涯学習課》
大石課長
松崎主幹
魚住社会教育主事
福田主査
平野主事

《関係課》

国際課課長補佐	安浪 真
文化政策課副課長	岡内 ゆりか
高齢福祉課副課長	荒尾 恵太郎
障がい福祉課長	林 伸俊
スポーツ振興課長	岡島 史明
熊本博物館主幹	岩永 直樹

<会議内容>

- ・【議事】 第 2 次熊本市生涯学習推進計画の確認について
- ・【報告】 今後のスケジュールについて

発言者	発言要旨
	【開会】
【議事】	第2次熊本市生涯学習推進計画の確認について 事務局説明
原委員	課長の説明にあった「はじめに」での私からの意見ですが、少し詳しく説明をさせていただきたい。もっとも気になったのが4段目で、「お金では買えない」というダイレクトな表現について、「お金で買えない幸せ」って、逆に言えば「お金で買える幸せ」とはなんだろうと思った。例えば、健康を考えたときは、薬は買えても健康は手に入らないというように、「お金では手に入らない幸せ」という表現で良いのではないかと思った。 また、「一人の市民がたくさん歩くことで」という表現だと、現実的に歩かなければいけないというような印象を与えるのではないかと思うので、「一人の市民が自分を磨き続けることで生まれてくる個人の幸せが地域に広がり」というような表現にしてはどうかと思う。
八幡委員	「100 歩歩けば 100 倍幸せ」と併せて「預金通帳にはない幸せづくり」というのも前の段階で出てきており、その辺りもこの表現に加えていただいているのだろうと思った。なかなか表現の仕方も難しいところがある。原委員のご意見を踏まえて若干文言の微調整をしていただければと思う。
生涯学習課	ご意見を参考に検討していく。
田川委員	「一人の市民がたくさん歩くことで」という部分について、歩くことを限定すると、足の不自由な方もいらっしゃると思うので、そういう方も歩くという感じになってしまうのではないか。そのようなことを考えると、タイトルは「100 歩歩けば 100 倍幸せ」で良いのかと今思った。「進む」というようなことには変えられないのか。歩くという行動ができない方がどういう風に感じられるか少し不安に思った。
生涯学習課	タイトルを変えられないことはないが、原委員がおっしゃったように、説明の中で言い換える形で表現できればと考えているので、そこはまた検討したいと思う。
八幡委員	足を使って歩くだけではなく、積極的にそういう出会いの機会、学習の機会にアクセスするというような意味が込められているのだと思う。
貴田委員	「たくさん歩く」というところについて、おそらく一歩進めばまた少し見え方が変わり、自分の世界が広がったり、出会いがあったりという意味だと思う。「歩む」など、足を使って歩くだけではない意味を含められたら良いと思う。
生涯学習課	散歩を例にしているので 100 歩歩けばというところにはなるが、ご意見を踏まえ、歩むというところでの表現を検討していきたいと思う。

発言者	発言要旨
貴田委員	34 ページの進行管理に係る考え方とところで、PDCA サイクルというのを 出されている。これが市役所の中では一般的な手法なのかもしれないが、 最近はその他にもロジックモデルなどいろいろある。そのような中で、 PDCA にする理由は何かあるのか。
生涯学習課	年度ベースで見直していくということを考えたときに、PDCA サイクル が良いのではないかと考え、これを採用した。
八幡委員	何かこれに代わる方法などのご提案はあるか。
貴田委員	計画をあまり時間かけてせずに、まず実行をして、その検証という部分に 時間をかけて改善していくというようなやり方もあると思う。検証の部分 や、今回で言えば市民アンケートの部分にヒントがあるのではないかと思っ た。例えば、総合計画の市民アンケートの中で、「効果がなかった」「分から ない」と答えた方が一定数いると思うが、それはどういう意味でそう答えた のかというような、次の質問もそこに加えていくと、ヒントが見つかるので はないかと思う。PDCA サイクルで計画に時間をかけて、検証や改善の部 分に力を入れられないということがもしあるのであれば、もったいないと思 う。 例えば、コロナでうまくできなかったというような説明が最初にあったが、 コロナ禍で何ができたのか、どういったことができるのかという取組ができ れば、そこも報告の中に入ってくるのではないかと思う。計画だけになって しまうと、対応が後手になってしまうのではないかと危惧している。
八幡委員	具体的なことにアクションしながら次につなげていくという、アジャイル など、様々なやり方が最近出てきていると思う。
生涯学習課	貴田委員のご発言にもあった、小さなところからすぐに取りかかり、やり ながらどんどん直していくというサイクルも、各事業を進めていく上で必要 な考え方だと思っている。コロナ禍の時も、どれならできるかということ をそれぞれの部署で検討しながらやっていたということ、2 年前の生涯学習 関係課会議で確認した。 計画そのものは PDCA サイクルで回していくとあるが、各事業において は、小さなところから始めるなど、違う流れがあると考えている。
八幡委員	PDCA サイクルを回しながら、予期しない事象が生じたときは、臨機応 変に問題解決にあたっていくということもご留意いただきながら事業を進め ていただければと思う。
中川委員	PDCA は少し古い。C (check) ではなく S (study) だと思う。原因など を考えて次のステップに行くには、check だけでは対応できないと思う。一 般的には C だが、新しい考えの中では S である。ただ評価するという話で はなく、原因を言及して新しいものを作っていくというのは study だと思 う。私としては S の方がいいと思う。
生涯学習課	そこも検討させていただきたいが、説明の中でもう少し厚みを加え、検証 や改善に重きを置くような説明ぶりを検討していく。

発言者	発言要旨
松永委員	8ページの(3)②に「自発的意思」という言葉があるが、学校教育の中であまりこの言葉を使っていない。自主的、自発的という言葉は使うが、「自発的意思」というのは私の学校の中で使い慣れていない言葉だと思った。生涯学習として使えるのであれば良いが、他のところは全部学校でやる内容になっていたの、代案も出していただけるのであれば、より身近に感じると思った。
八幡委員	具体的なワードの提案はあるか。
松永委員	自主的、実践的、主体的というような言葉を学校教育の中では使う。
生涯学習課	教育委員会の方で今策定している教育振興基本計画との関連もあるので、そこら辺の文言も含めて教育委員会と調整していく。
八幡委員	仕上がってきているからなのか、特段意見が出ないようなので、今後に向けての展望も踏まえたご意見や、この計画に関わった感想なども踏まえて一言ずつお伺いしたい。
林田委員	公設公民館などと民間が一体となって何かをやるというようなことはなかなか難しく、今までも何かをしようという話はあったが、具体的なものが出てこなかった。民間の施設も厳しくなっている中で、こういう策定委員会にも参加させていただき、今後は具体的に何かをできれば良いと思っている。例えば、今いろいろなところで健康マージャンをやっているが、その大会を一緒にやるなど、そういうところから地道にやっていき、連携ができてくれば良いと思っている。 また、リカレントの教室として、熊本県ドローン協会と一緒に、松尾東小の跡地でドローンの国家資格の講座を始めている。さらに今やりたいと思っているのは、カルチャーセンターの本棚をすべて漫画本にすること。熊本大学がやっているアーカイブの力を借りて、熊本出身の漫画家等と連携をしてやっていこうと思っている。 大きなことをするのは難しいが、地道に一つ一つ具体的にやっていければと思う。
萱野委員	これまで「生涯学習」という言葉を狭義で捉えていたが、今回この計画で、広い意味での「生涯学習」という言葉を知ることができた。生涯学習が一人ひとりの幸せにつながる学びになると良いと思った。 先ほど話があったPDCAサイクルについては、市役所の計画としてはふさわしいと思うが、説明をもう少し加えると、より伝わりやすいのではないかと思った。また、状況に応じて適宜変更していくことが大切だと思う。
松永委員	学校はどれくらい関われるのかという疑問があったが、計画で挙がっている内容は、学校でも取り扱っていること。大きく捉えると、生涯学習の基礎を学校教育でも担っているということを感じ、改めて頑張っていかなければと思った。また、そういった取組が興味を持ったり感想を持ったりすることにつながると思った。 学校にはいろいろな教育が入ってくるが、カリキュラムが決まっている中

発言者	発言要旨
	でどれだけやるのかというところが実際にはある。それを年間計画でうまく落とし込めたらやっていかなければと改めて感じた。 私の学校は大江公民館が近くにあり、公民館との連携をさせていただいている。例えば、水俣病の絵本を書かれた三枝三七子さんが学校に来て講演してくださったり、去年は、琴と尺八の先生が出前講座のような形で来てくださった。そのような、学校だけではできないところを、公民館から紹介していただくことのできることをできた。 先ほど民間の話があったが、民間も学校に対してチラシの配布依頼が多い。特に夏休み前はとてたたくさん来るので、そういったところは精査をして欲しいと思う。学校に送れば何かやってくれるのではないかとおられており、場合によっては何人くらい出して欲しいというリクエストがあるが、こちらは紹介しかできないということを行っている。つながりという話も出たが、そういったところも連携できると、参加もしやすいのではないかと考えた。 また、周知をしないことには、子どもたちも参加ができない。ある意味学校にチラシを配れば周知になるかもしれないが、それから先の、周知や参加してみたいと思えるようなアピールもこれから大事になってくるのではないかと考える。私も現場が終わったら、生涯学習に楽しみを見出しながらいろいろな機会を大事にしたいと思っている。 子どもたちは今習い事や塾などでとても忙しく、土日は参加が難しいという声が多いので、学校教育の中でどれだけ興味を持たせられるかという種を作る役割をこれからも頑張っていきたいと思う。
貴田委員	これまで公民館の講座には参加したことがあったが、計画があって、個別具体的なイベントや講座があるというのは知らなかった。とても多くの人に関わって熱意を込めて作られているということを市民の立場で考えたときに、少しでも多くの人に足を運んでもらうことが最終的には大事だと思った。 この計画は健康や福祉、多文化理解など、とても範囲が広い中で、効果というのはなかなか見えにくい。市民に情報を届ける際には、計画自体を届ける必要はないかもしれないが、A3の一枚ものなどがあれば良いのではないかと考える。 市民アンケートの問いで、どのように情報を得ているかというのがあるが、これに答えている方は積極的に情報を取りに行っている方が多いと思う。取りに行っていない人にどう届けるか。年齢によってもどこで情報を得ているかはバラバラだと思うため、それぞれの方にどういった形で届けるのかというのを庁内の部署とも連携し、少しでも市民に届くようにして欲しい。
加藤委員	素案の表紙を見て、今まで市役所が出しているものとは違い、とても良いと思った。また、委員の意見を取り入れていただき、非常に良くなってきた

発言者	発言要旨
	と思う。 私が40年ほど前に自分で仕事を始めたときは、学校教育と社会教育だけだった。20年くらい前までは、生涯学習をやるのは教育委員会というようなイメージがあったが、今は生涯学習課が市長事務部局に来て、行政全体で取り組むという体制になり、各課との連携も非常に良くなってきたと思う。地域公民館をやっている中で、地域づくり、まちづくりをするときには、市長事務部局のまちづくり担当職員と連携してやっているが、教育委員会（公民館の社会教育主事）との連携もやっていく必要があると思う。学校施設を使うときに連携が取れていないということが多々ある。こういう計画を作っていく中で、これから先も教育委員会と市長事務部局は風通しが良いようにして欲しい。 今回、デジタル化の推進というのが新しく入った。私の年代からすると、スマホをやっと自分で扱えるようになったが、小学3年生の孫がタブレットを使いこなしている。今の子どもたちはすごいと思った。夏休みも先生とリモート会議を行っており、時代は変わってくると感じた。これから先、高齢者も多いため、デジタル化の推進はやっていかなければいけないと改めて思った。その末端となる公設公民館が出先で頑張っていただかなければと思うので、そのことも含めて全館で取り組んでいくと、この計画が進んでいくと感じた。本当によくできたのではないかなと思う。
田川委員	生涯学習というのは公民館に行って講座を習ったり、サークル活動をしたりすることだという固定観念にとらわれており、目から鱗だった。一番最初にもらった資料が膨大で、どうなるのだろうかと思ったが、最終的にこの素案ができて、良くできたと感心している。言葉にしてもすごく洗練されているし、分かりやすくなっていると思う。 婦人会の立場からの感想を申し上げますと、婦人会というのは、もう年齢層も高くなり、どちらかというとおせっかいのおばちゃんたちが集まって、地域のことを好き勝手やっている。しかし、婦人会がやっていることはまさに生涯学習のことばかり。幸せは人それぞれ違うが、一つ婦人会として言うところ、人から感謝される、認めてもらうことが一番幸せではないかなと思う。生涯学習は意外と身近なところでやれるというのが今回分かった。
中川委員	本当はスポーツを中心に言えばよかったが、生涯学習の方に意見を言い過ぎで迷惑をかけたのではないかなと思う。最初に言ったように、4回では無理な話だと思う。それなりにまとめられて素晴らしいと思うが、ここで終わりではなく、次の見直しまでの間にまだ考えておくべき内容はたくさん残っていると思う。4回で作るというのは大事なことだが、策定後から見直しまでの間にこのような機会をフリーにして、問い直していただけると、次の時にこれを踏まえて、また違う内容も加えたものができくと思う。 ただ評価して次の時に作るというのは間に合わないと思う。次のステップまでの間が非常に重要なので、ぜひ中間の間をもう少し利用していただければ

発言者	発言要旨
	ればと思う。やっとウェルビーイングという目標ができたと思うので、そこにどうつなげていくのかというところになってきた。生涯学習については、各課の意見をただ並べるのではなく、生涯学習課がイニシアティブを取って、一つの方向にまとめて推進していった方がいい。この後の施策のあり方について期待をしているので、次までの間を埋めていただき、やるべきことを実現していただくと、市民がより豊かに生きられると思う。
原委員	短期間の中で、よくここまでまとめられたというのが第一印象。少ない担当者で、時間と労力をかけてここまで作成されたということに敬意を表したい。同時に、委員の意見を真摯に受け止め、次の会議で修正点についての説明をしながら前進する姿勢はとても大切だと思った。今後、1年ごとの評価の際には、この計画に沿って各課がどう取り組んでいるのかというチェック機能を果たしていただきたい。 今回、委員会に参加して生涯学習に対して自分自身に無意識の思い込みがあったように感じた。社会情勢によって変化していくニーズを生涯学習の中で如何に取り込み、市民に如何に理解してもらうのか、さらに今回掲げた生涯学習の理念が市民一人ひとりに認識されなければ、人づくり、地域づくり、そして社会づくりというものが広がっていかないのではないのかというのが率直な感想。 今、一番関心を持っているのは、学校のクラブ活動が地域に移行すること。このことは、生涯学習の一環でもあるのではないかと最近思えてきた。そういった地域の人と子どもたちがふれあう場を作り、それが広がりを見せていく。ここから新たなスタートが始まっていくということであれば、この生涯学習推進計画がそういった役割も果たしていくことを期待している。今後は生涯学習課がタクトを振りながら、この推進計画に沿った取組を進めていただきたい。
八幡委員	今回この計画に加えることができた新たな視点は2つあると思っている。まず1つ目は、コロナ期を経て、学校もタブレット端末が普及するなど、いろいろなところでDX化が進み、時間や場所にこだわらず、いつでもどこでも学べるというようなDX化が生涯学習の概念も変えていったということ。生涯学習の成果指標をどのように測るかということもこの委員会でご議論いただいたが、そうしたこれからの熊本市において求められる生涯学習の新たな理念というものにもアクセスする機会になったのではないかなと思う。 もう1点は、やはり熊本市といえども、人口減少社会というものに直面する中、外国人材の受け入れ調整などの新しい課題に直面しており、多文化共生はもちろんだが、ダイバーシティやSDGsなど、多様性の実現に資する新たな取組、あるいは重点項目というところを盛り込んでいただいたと思う。非常に加速的にいろいろな社会の課題も発展しているので、現段階での課題のみならず、新たな課題が次々に生まれてくることもあると思う。そう

発言者	発言要旨
	したところにも、今後迅速に対応できる体制が必要だというようなご要望があった。そこも踏まえて、現段階での通過点として今回の計画を取りまとめさせていただき、教育長の方にも提示させていただければと思う。
【報告】	今後のスケジュールについて 事務局説明
	【閉会】